

令和5年度 第3回 東小学校運営協議会 会議録（要点記録）

- 1 開催日時 令和5年9月11日（月） 午前9時から午前10時30分まで
- 2 開催場所 東小学校 2階 ポプラルーム
- 3 出席委員 松下 克幸、中川 清子、中村 将義、杉山 晴康、大脇 加名、竹山 有希
- 4 欠席委員 小名木 秀雄、高木 邦子、今中 秀裕
- 5 学 校 大石 泰三（校長）、杉山 章子（教頭）、船越 裕康（CS担当教職員）、原 真衣子（CSディレクター）
- 6 教育委員会 鈴木 陽子（教育総務課）
- 7 傍聴者 なし
- 8 会議録作成者 CSディレクター 原 真衣子
- 9 議長の選出
司会から、議長の選出について委員に意見を求めたところ、杉山委員が本日の議長を務めることを申し出て、全員異議なくこれを承認した。
- 10 協議事項
(1) 学校評価と課題の改善策について
(2) 支援活動の具体化について
- 11 会議記録
司会のCS担当教職員から、委員総数9人のうち6人の出席があり、過半数に達しているため、会議が成立している旨の報告があった。

(1) 学校評価と課題の改善策について

■ 報告（CS担当職員）

- 評価の結果を集計してまとめた資料をもとに、職員で話し合いを行い、具体的な手立てや課題を共有した。更にその課題を絞り込み、学年団、部別で取り組む課題を重点化した。例えば中学年は礼儀正しさを大切にする、高学年はお互いを認め合うようにするなど。教師からも積極的に声かけを行っていく。
- 「やさしい子」 挨拶はできても、相手を見て行ったり心を込めたりすることが難しい。おはよう以外の挨拶も大事にしていく。「ポプラっ子あいさつ・返事カード」を活用していく。
- 「進んで学習する子」 自分の意見ばかりを言うのではなく、人の意見を聞くことを大切にする。そのために、他学年の授業の様子を見学する時間を設ける。他学年（主に上級生）の授業への取り組み方を見ることで、自分の目標とする姿を思い浮かべることができ、また見られる方も緊張感をもって授業を受けることができる。1ヶ月に1度10分程度行い、振り返りを行う。
- 「元気な子」 心の天気のアнкеートを引き続き実施する。自分の状態をきちんと理解

することで、落ち着いた生活ができるようになると思った。継続して行うことで、その後の変化を確認することもできる。

■ 熟議

- 学校は「進んで学習する子」という部分に力を入れてほしい。「やさしい子」や「元気な子」、挨拶などは家庭やPTAなどでやることでは。オンとオフの切り替えが大事である。中学年は元気いっぱいだが、高学年になると恥ずかしさが出てくるということもある。少人数でお互いのいいところを言い合う取り組みは良いと思う。(松下委員)
- 子ども達はできていると思っけていても、親や先生から見たときにできていないと感じることもある。具体的にどのようにしたらいいのかを見せてあげると子ども達に伝わりやすいのではないかと思う。心の天気は大人にもいいと思う。(大脇委員)
- 他学年の授業を見学するのはとても良いと思う。(竹山委員)
- 親子で接している時間がどのくらいあるのか。祖父母と接している時間はあっても親と接している時間が少ない家庭もありそう。親が子どもと過ごす時間を増やせるといい。他学年の授業見学については、見るだけではなく体験するようにするといいのではと考える。(中村委員)
- 「ただいま」や「おかえり」、「さようなら」の挨拶をととても大事にしている。以前よりも挨拶できる子がふえてきたと思う。放課後児童会では元気がありすぎる子もいるが、進んで学習する子もたくさんいる。(中川委員)
- 1年生は何も分からずに入塾してきて、まずは挨拶から始まる。学校は教育することも大事だが、社会性を培うために挨拶すること、認め合うということが大事であると感じた。浜松の出生数が5000人をきった。大事な子どもたちを地域みんなで育てていく。学ぶとはまねるとのこと。良い行いをまねることが学びにつながる。また、大脇委員の言うように、子どもの評価とギャップが生じることはあると思う。学校でできることが、家庭に戻ったときにもきちんとできるようにしたい。親子だからいいという甘えではなく、当たり前のことを当たり前できるようにしていけたらよい。(杉山委員)
- 他学年の授業見学については、少人数ごとに自分より上級生のクラスを短時間見学するというを考えている。上級生はお手本となるような行動をするように心がけるようになり、下級生は自分の目標となる姿を明確に持つことによってお互いに良い影響があるのではないか。(CS担当職員)
- 挨拶は永遠のテーマ。たったひとつの挨拶や行動が、人を感動させたりすることができる。学校も地域も家庭でも続けていく必要がある。(松下委員)
- 今は、上の人と関わる機会が少ないように感じる。親子関係ではなく、上下関係というものを感ぜられる機会として学校は重要な場所になっている。挨拶はお互いを認め合うことにもつながる。(杉山委員)
- こころの天気について、不安、心配という天気があってもいいのではないかと思う。(中村委員)
- 中学生になった子どもがいるが、その中学は先生方の配置転換が少なく、子ども達をずっと見てもらえるというのがいいところだと思う。小学校でも長い期間在籍して見守っ

てくれる人がいたらよい。(中村委員)

- 教員になったばかりの頃はいろんな環境で学べるように、短い期間で異動する。(校長)
- 学校や先生にそこまで求めるのではなく、家庭や地域でやるべきことでは。何かあったときにきちんと家庭に伝えることは大事だと思うが、親や家庭でやるべきことを学校に求めるのは難しい。(杉山委員)

(2) 支援活動の具体化について

■ 説明 (大脇委員)

- あいさつ運動を毎月11日に行うことになった。登下校時に保護者や地域の方、民生委員や先生方などに協力してもらって行う。顔を見たら挨拶できる関係を作っていきたい。自治会の力を借りたりしながら活動を広めていきたい。
- 必要な方には挨拶運動をしていることが分かるネームタグを配付予定。また申請すれば教育委員会から子ども見守りボランティアのたすきももらえる。こちらの声かけの仕方によって、相手の反応も違う。元気に気持ちの良い挨拶をすることで相手の反応も違ってくるのではないか。

■ 熟議

- 八幡地区では民生委員全員がたすきを持っている。ゆるやかな見守りにつながったらよい。たすきをかけていると子ども達にとっても、安心できる存在になる。犬の散歩やウォーキングの際に付けてもらうのもいい。決まった日、決まった時間に、決まった場所で行う挨拶運動だと参加するのが難しい人もいると思うが、どこでも好きな時間に行う挨拶運動なら参加しやすいのではと思う。(杉山委員)
- 集団登校について、学校はどのように考えているか。(杉山委員)
- 集団登校をすることで、上級生の見守りのもと、安全に、また決まった時間にきちんと登校してくる子が多いと思う。個人登校にすると遅くに登校する子どもが出てくる可能性もあり、そうすると旗振りの時間が延びるなど見守りの人の負担も増える。登校時、意識の高いリーダーがお手本となって挨拶をしたりすると、下級生もそれをまねるようになる。(校長)
- 個人登校になって遅れてくる子どもがいると、その児童を待つために他の児童の時間がつぶれたりする。集団登校が望ましいと思う。(松下委員)
- 安全面に加えて、縦のつながりもできるし、集団登校は継続していくのが良いように思う。子どもは地域全体で育てるという認識を広めていきたい。(杉山委員)

○ 学校支援コーディネーターからの報告

学校支援活動として、夏休み中サッカー少年団が花壇に水やりをしてくれました。

○ その他

司会から、次回会議は、令和6年2月13日(火)午前9時から東小学校会議室で開催する旨の報告があった。

次回議長については、杉山委員から高木委員を推挙する旨の発言があり、全員異議なくこれを承認した。